

県内の温泉盛り上げへ沓掛さん(板柳)

ステッカーで魅力発信

青森西高校で生徒たちに温泉ステッカーのデザイン制作に挑戦してもらつた沓掛さん(右) (右)



青西高生 あすから販売

沓掛さんは全国各地の温泉を巡ってきた温泉マニア。出身地の板柳町に昨年Uターンし、県内の温泉が経営者の高齢化、建物の老朽化、電気代などの価格高騰といった課題に直面して休業・廃業するケースが増えている現状を憂い、「青森の湯っこ」の活性化に力を入れている。

沓掛さんは県教育委員会

による「あおもり創造学」で、青森西高校(青森市)の活動「青森未来創造プロジェクト」で、青森未来創造プロジェクトの講師として参加。温泉の実情や課題を高校生に伝え、課題解決の一つとしてステッカーでデザインに取り組んでもらつた。

ステッカーデザインに挑

県内の温泉を盛り上げようと「青森の湯っこ協会」を立ち上げて活動している沓掛麻里子さん(43)〔板柳町〕が、高校生のアイデアを借りて温泉を支援する挑戦を始めている。高校生の発想を生かした温泉ステッカーデザイン制作に挑戦してもらつた沓掛さん(右)

ツカーデザインを県内の温泉で販売し、少しでも温泉の収益につなげようとするもの。沓掛さんは「いい風呂の日」に合わせ、11月26日から販売したい」と意気込む。

(下山和枝)

戦したのは1年生39人。人工知能(AI)を活用し「高増温泉不動乃湯」(板柳町)など津軽地域の温泉をイメージするデザイン案を提出した。温泉の名称からイメージしたものの看板猫をイメージしたものがカラフルでユニークなデザイン案が集まつた。

参加した有馬力ンナさんは「浪岡地区に住んでおり、子どもの頃から温泉に通っている。温泉の魅力が伝わり、欲しいと思つてもらえるデザインを目指した」とし、阿部涼太さんは「部活の仲間と温泉に通うのが好き。あって当然と考えた」とし、阿部涼太さんは「温泉が大変と初めて知り、温泉の特徴を伝えられるデザインを一生懸命考えた」と話した。

沓掛さんは対象温泉を回って販売するステッカーデザイン案を示し、温泉側の要望を反映した最終的なデザインを制作中。板柳町や青森市浪岡地区などの一

部温泉で26日からの販売を予定しており、「若者のアイデアを生かしたステッカーデザイン制作に挑戦してもらつた」と同時に、温泉を盛り上げたい人たちの応援

手段として活用してもらえば」と期待を寄せていく。